

「特筆も筆に添った2022年の夏」

会長 木阪泰之

おかげさまで、2019年からスタートした弘前との交流が、今年度は白壁の町並み内での「弘前ねぶたの制作」という大きな成果をもたらし無事終えることが出来ました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



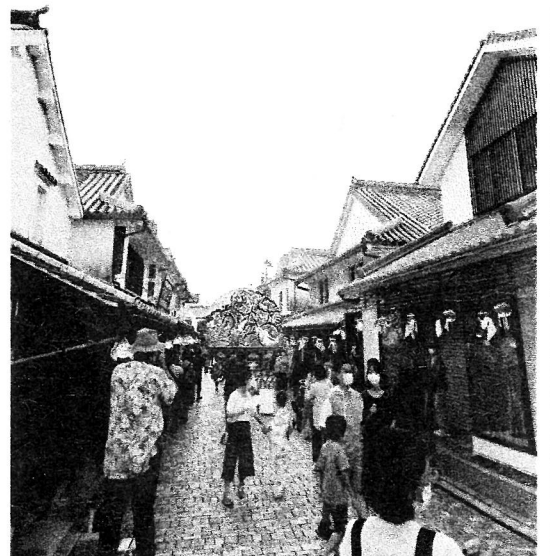
凡そ2ヶ月間に渡る制作期間を経て完成したねぶたは細部にまでこだわり実に見事な仕上げがとりなりました。ご覧になつた方も多

第九十二号  
柳井市白壁の町並みを守る会  
事務局(皿田治)  
TEL 090-1012-4204

と思いますが、8月6日の点灯式の光景は本当に美しく、夕やみを背に松岡泰仙氏画の鏡絵「金魚ちようちんの始祖」熊谷林三郎がねぶた内側から明かりが灯された様は生涯忘れることの無いであろう景色でした。



本橋上に展示装飾された13日の本祭りにおいても、常に写真を撮る人々で溢れ、柳井市白壁の町並み「金魚ちようちん」金魚ねぶた「弘前ねぶた」伝統的建造物群保存地区というキーワードが繋がり、地元の皆様にも金魚



ちようちんのルーツがジワリジワリと浸透してきていることを肌で感じました。

私見ではございますが、実は特筆すべきは柳井金魚ちようちん祭り以後にあったと感じています。8月13日に東奥日報で、9月6日には陸奥新報で、今回の柳井の取組みについて青森の新聞社が弘前の皆様に向けて情報発信(記事掲載)されたということです。柳井で大いに盛り上がるのとは違った意味で大きな意義があると思います。

今回は節目の年でしたので皆様と大いに汗をかかせて頂きました。引き続き身の丈に合った交流事業を継続し、両地にスポットライトが当たり人の流れが大きくなる事を念じております。会員の皆様におかれましては引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。





# 3年ぶりの金魚ちようちん祭り

熊谷元喜

柳井の夏に金魚ちようちん祭りが帰ってきた。あやぶまれた天候もなんと持ちこたえ、三年ぶりのお祭りは多くの人でにぎわいました。さまざまイベントが中止のなか、注目を集めたのは弘前市との交流行事でした。特に当日にもライトアップ展示された「弘前ねぶた」は圧巻で、勢いを感じた「弘前ねぶた」は熊谷林三郎氏の絵姿は今にも飛び出して来そうな迫力でした。ご協力いただいた弘前の絵師や職人の皆さんや二ヶ月近くもお疲れ様でした。

また、今年は金魚ちようちんだけでなく、そのルーツである「金魚ねぶた」が白壁の町並みに連なりました。金魚ねぶたはライトアップされるとドット柄が可愛らしく、連日連夜多くの方がカメラを向けていました。やないろの会場として、この金魚ねぶたを制作できる体験教室も三日程で行われました。全日程満席でキャンセル待ちが出るほどの盛況でした。弘前とリモート中継してアドバイスを受けながら、老若男女たくさんの方々が体験されたということだと思います。

当会恒例のかき氷屋は出店できませいでしたが、当会会員と市民ボランティアの方々でドリンク類や弘前とのコラボグッズを販売しました。弘前のり



金魚ちようちん祭り販売コーナー近景

無事に完売することができ、ねぶた絵がデザインされたポロシャツも予想を超え、売れ行きとなりました。敏腕の販売スタッフが、お力に協力いただき、皆さりがとうございました。

今年の金魚ちようちん祭りは規模を縮小して開催でしたが、浴衣姿の子なども、笑顔を交わす姿が見られた。お祭りのチカラを感じました。この日常感では得られないものですね。

## 十二年ぶりの寄稿文

久保淳史

実に12年半ぶりの寄稿です。皆様お変わりないですか。私は今春から、守る会で監査を、仕事では平生町教委で社会教育を担う事となりました。今回は、仕事の中の「町子ども会事務局長」として感じた事から書かせて頂きます。

長引くコロナ禍の中でも楽しい思い出を作れたらと、子ども会主催の夏休み絵日記コンテストを行い、町内の小中学生から多数の応募がありました。

作品の中には、「金魚ちようちん祭りへ行ったら」「サプライズ花火を見た」「買物などを楽しんだ」等々、柳井に関する記述もありました。どれも、子ども達だけで出かけて楽しかったという感想の物です。

思い返すと、10代の頃の私も、友達と呉や島の市街地へ行く事を楽しみにしたものです。車が無い世代にとっても、隣の街は憧れの地だと改めて思います。だからこそ柳井市が、大人になっても「楽しい思い出が残る街」と感じられる様な「柳井圏域での憧れの地」であり続けてほしいと願うばかりです。

筆者略歴  
久保淳史(くぼ あつし)  
昭和59年9月、広島県呉市生まれ。  
平成15年、松山大学(旧・松山商科大学)経済学部大学院経済学研究所に在籍。  
愛媛県内子町や奈良県橿原市今井町の事例を中心に「町並保存と観光のあり方」を研究。(以降、平成22年4月まで計13回寄稿)  
令和2年4月、平生町役場へ入庁。  
令和4年5月、平生町教育委員会・社会教育課へ異動。現在に至る。

# 柳井の地図絵図

岸田稔明

## 第三十五回 周防鉄道株式会社線路実測

### 平面図(山口県文書館蔵)

前回は、平生く伊陸間の鉄道敷設計画について、「周東鉄道株式会社線路予測平面図」により説明した。今回は、この鉄道敷設計画に関連し、由宇く日積く伊陸く祖生く玖珂間に計画されていたもう一つの鉄道敷設計画について、「周防鉄道株式会社線路実測平面図」によりみていく。

この図面は、山口県文書館に所蔵されている「周防鉄道敷設一件」に附属している。一件には、大正九(一九二〇)年から十三(一九二四)年までの文書と図面が綴られている。



周防鉄道株式会社は、大正九(一九二〇)年に設立された。設立の発起人は、伊陸村長や衆議院議員を歴任した裕俊聰(はたしむとく)を筆頭とする計五十三名である。社長には嶋谷徳三郎が就任し、本社は由宇村に設置された。大正十(一九二二)年七月

十五日に鉄道大臣から鉄道敷設の免許状が出ている。

全長は十二哩四十鎖(約三十三キロメートル)で、途中の伊陸で、前回紹介した周東鉄道に接続することとなっていた。線路は単線、動力は蒸気で、軌間(線路の幅)は三呎六吋(三フット六インチ、一〇六七ミリメートル)と、現在の山陽本線と同じである。途中柏原、横道、日積、木部、伊陸、木焼、四割、祖生、瀬田に駅が出来る予定だった。

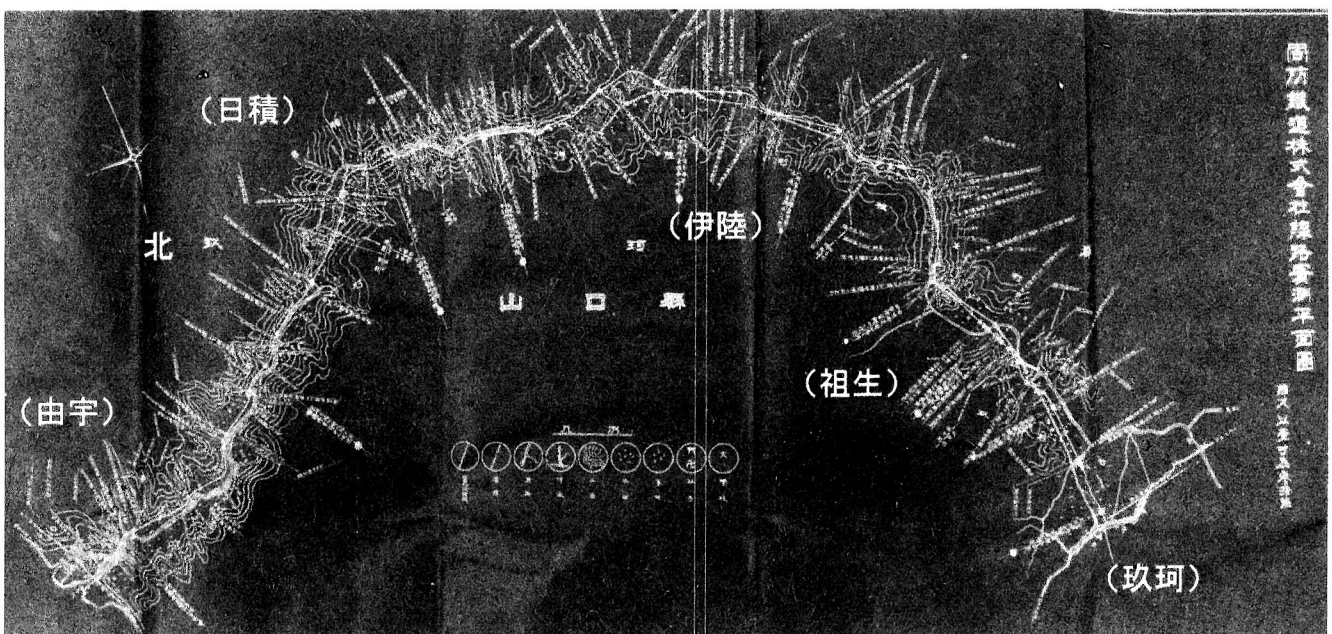
大正九(一九二〇)年には、岩徳線が予定線となっていたが、周防鉄道の測量は進められた。県文書館には、各駅の詳細な設計図も残されている。建設費は百二十五万五千元を予定していた。

ところが、由宇駅付近の約四百メートルは、当時の国鉄と連絡設備の調整がつかず、工事施行認可申請書の提出が度々延期となった。また、岩徳線の建設が確実となり、岩徳線予定路沿線となった玖珂村が建設に消極的となった。さらに、大正十二(一九二三)年には米が不作となり、関東大震災も発生して資金の調達が困難となってしまった。

結局、大正十三(一九二四)年に免許状を返納し、会社を解散することとなったのである。解散にあたっては、裕俊聰が社長となり、清算を完了した。

柳井地域で計画されていた二つの鉄道計画は実現しなかった。岩徳線は昭和九(一九三四)年に全線開通して山陽本線に編入され、柳井經由の路線は柳井線となった。

【周防鉄道株式会社線路実測平面図(山口県文書館蔵)】地名等を加筆





# 商都柳井の歴史 その廿二

松島 幸夫

## 柳井津商人の心(一)

### 恵比寿神に商売繁盛を祈る

柳井津の商人たちは店を繁盛させるため、常に全力を投入しました。時勢に乗って繁栄を謳歌できる場合もありましたが、反対に時勢に裏切られて悲惨な結末を迎えることもありました。現在ならば客観的に分析をしますが、江戸時代には信仰心の深さが結果を招いたと考えました。商人たちは八百万の神の中から恵比寿神をとくに信仰しました。

えびすを漢字で書くと、恵比寿、恵比須、戎、胡、蛭子と多様な表記があります。えびすの神像は、右手に釣り竿を握り、左腕で大きな鯛を抱えています。したがって漁師の神様です。しかし大漁祈願だけでなく、商人たちにとっては商売繁盛をもたらす神様でもありました。



柳井津には、「恵比寿講」が地区ごとに存在しました。講とは目的を同じくする集団です。20軒程度の商人

たちが集まって講を結成し、神主を招いて商売繁盛や町の活性化を祈願する祝詞をあげ、お祓いを受けた後に、懇親会を開いていました。

緑町では小形の祠の中に恵比寿神像と大黒様像を祀っていました。神事を年に3回実施していました。当屋になった家には、恵比寿神を祀る小祠と小蔵が運び込まれます。小祠や小蔵を床の間に置いて祭壇をつくり、鯛や野菜などを供えて、講の集まりを催しました。「商売繁盛、町内繁盛、金もうけ、子もうけ、お息子、おめでとうございませす！」と全員で唱和して酒を交わすのが習わしでした。

現在では柳井津において商業を生業とする家が少なくなりましたから、恵比寿講の神事を維持することが難しくなりました。そこで緑町では講を解散してしまいました。一方で古市では、恵比寿講の小祠を常に皿田家の床の間に祀っています。現在でも年に1度は、神主を招いて神事が行われます。古市では小祠の中の神像を見ることは許されず、どんな神像か分からないそうです。かつては小祠を次々と恵比寿講の当屋へ回っていたのですが、当屋を受ける家が少なくなってしまう結果、いつも皿田家に留まっています。

さて南浜一丁目には蛭子(えびす)神社が鎮座しています。この神社は江戸時代の末期に入浜式の塩田が開作された際に、製塩業の経営者たちが業界の隆盛を祈念して創建したものです。広い塩田の中央部には南から北に向けて水路を設置しました。塩田に潮水を導入したり、資材や製品塩を小舟で運ぶための水路です。その水路の北端に、

蛭子神社を創建したのです。

えびす神は、日本最古の歴史書である「古事記」に登場します。その記述によれば、えびす(蛭子・ひるこ)神は父イザナギ神と母イザナミ神の子として生まれました。しかし父母神が望まない子であったために、えびす神は笹船に乗せられて川に流されてしまいました。大海を漂流した後に、えびす神は岸辺に辿り着きます。やがて漂着した地では、えびす神の御利益によって大漁となり、種々の業種が繁栄しました。柳井の商人たちもその御利益にあやかろうと考えたのです。

柳井津の商人たちは恵比寿講を組織して商売繁盛を祈願し、南浜の製塩業者たちは塩浜に蛭子神社を創建したのです。

現代社会においては信仰心が薄くなってきましたが、みんなで心を合わせて繁栄を願ったり、寄り集まって行事を楽しむ習慣を大切にしていきたいものです。



緑町の恵比寿講の祭壇



# 資料館便り

## 「祝・十周年」

副会長 山近 絹代

お鐘金魚が町並み資料館の金庫の前に鎮座して十年。お金とご縁を運んでいた場所で庄巻のパワーを発揮し、多くの方にさまざまな幸運をお届けしている。幾度となくテレビ、新聞、雑誌で紹介され、噂が噂を呼んで、幸運スポットに！

そんなお鐘金魚が十周年を記念して、八月八日から十一日までガラポン企画を開催しました。柳井商工会議所の協力で、景品総数百点を用意しましたが、三日で無くなる好評ぶりでした。

併せて十周年を機に「お願いノート」「お礼参りノート」を設置してみました。

八月六日の朝一番のお客様は岩国から来られた八十一歳のご婦人でした。十年前に来館



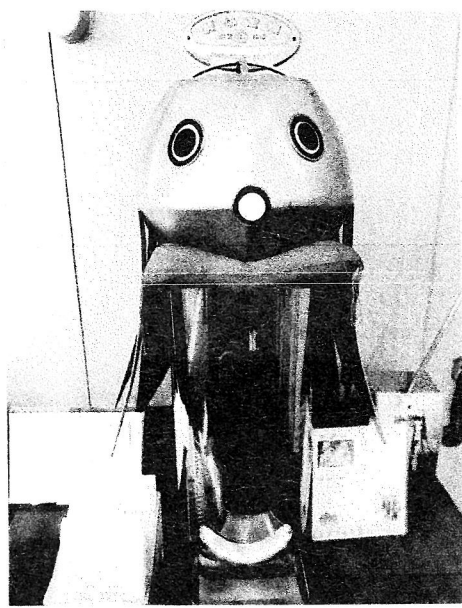
された際のお鐘金魚の包みを見せられ、「お礼参りノート」に「十年前に来て以来ずっと幸福、又来る事ができて感謝」と書いていただきました。ノートを置いた途

端に十年前に来られた方に書いていただけることビックリ！

そんな二冊のノートに書かれたお願いや報告、お礼を少しご紹介。

- ・宝くじが当たりました。
- ・公共工事入札に当たりました。
- ・仕事があまくいくように願ったら叶いました。
- ・来てからすぐにネット販売の売上が二倍になりました。
- ・十年前に来た時に、楽しく過ごせるように願ったら、良いことが続き、今とても幸せ。
- ・子供の退院を願ったら、予定より早く退院できた。
- ・などなど、あっぱれ「お鐘金魚」！

「お願いノート」の約六割は家族の健康と幸福を願うもの。その他にも大きな願いから身近な願いまで沢山の願いが記されています。皆さんの願いが沢山叶って、「お礼参りノート」を書きに来られた時に、皆さんの笑顔に出会えるのが楽しみです。



お鐘金魚

### 【編集後記】

★ロシアのウクライナ軍事侵攻から8ヶ月が経過。一体いつになったら終息するのか誰にも分からない。国境が海の上だから日本は比較的安心と思っていたが頭の上を北からミサイルが飛んでいった。7回目の核実験も計画中とかなんとか。核を持っている3カ国と海を接して囲まれている我が国の将来は大丈夫なのかと心配になる。

★3年ぶりの金魚ちょうちん祭りが実施された。当会も場所も形も変えて参加したが本年は若手新会員が中心となって運営。若い力いいですね。羨ましい限り。熊谷さん、久保さんご苦労様でした。

★満潮が過ぎて潮位が下がったと思ったら又増水と何度も潮位のアップダウンを繰り返して大いに動揺した八朔の船流し。自然現象は何が起こるか分からないと実感。(事務局 皿田)

### 令和4年度第2四半期 柳井市町並み資料館入館者数

|         | 令和4年7月~9月  | 令和4年9月現在累計 |
|---------|------------|------------|
| 町並み資料館  | 3,651      | 304,107    |
|         | 前年同期比 180% |            |
| 松島詩子記念館 | 689        | 110,427    |
|         | 前年同期比 148% |            |